

# 病 理 部

## 専門領域：病理診断学

### モデルケース

#### 1. 大学院コース

大学院に入学し、病理学講座に所属し、主として関連領域の研究に従事する。病理学講座腫瘍病理分野は肝臓の腫瘍学をメインテーマとし、種々の臓器での癌化機序の解明に取り組んでいる。病理学講座免疫病理分野は免疫学をメインテーマとし、ウイルス感染症・腫瘍性病変・アレルギー性疾患に関与する免疫機序の解明に取り組んでいる。大学院コースにおいては、研究と同時に病理診断に関する一般的技術・知識を修得する。研修内容に関しては各講座にて各人の希望に合わせ柔軟に対応する。

#### 2. 診断病理専門医コース

病院病理部に所属し、病理診断業務に従事し、病理診断に関する専門的技術・知識を修得する。研修内容に関しては、以下の研修体制・研修目標・研修計画を参考にして下さい。

### 基本研修体制

- 1) 研修医の所属は、大学院コースは病理学講座、診断病理専門医コースは病理部所属となる。
- 2) 病理部での後期研修では、基本的には日本病理学会の病理専門医研修カリキュラムに沿う形で4年間の研修を行う。診断病理医として必要な幅広い病理知識および技能を修得し、自ら病理組織診断ならびに病理解剖を実際に担当する。
- 3) 病理組織診断・病理解剖に関しては担当病理医が指導にあたり、細胞診・標本作製・電顕等特殊検査に関しては担当技師および担当病理医が指導にあたる。

### 研修目標

- 1) 4年間の病理研修を通して、人体病理に対する幅広い知識を修得するとともに、疾患の最終診断、発症機序の理解、治療方針の決定、予後の判定に寄与することを目標とする。
- 2) 2年間の研修で死体解剖保存法による死体解剖資格を取得し、4年間の研修により病理専門医および細胞診専門医の受験資格を取得する。その後、可及的速やかに病理専門医資格および細胞診専門医資格を取得する。
- 3) 具体的目標
  - 3-1. 組織診5,000件以上、細胞診1,200件以上の診断経験を通し、医療における組織・細胞診断

の意義と適応を理解する。

- 3-2. 50件以上の術中迅速診断（遠隔病理画像診断を含む）の診断経験を通し、術中迅速診断の意義と適応を理解する。
- 3-3. 系統解剖・司法解剖・行政解剖・病理解剖の違いを理解し、病理解剖の法的事項・手続き・有用性に関し説明できる。
- 3-4. 40症例以上の病理解剖を実践し、臨床病理症例検討会（CPC）を担当する。
- 3-5. 3編以上の症例報告および研究成果の学会報告と原著論文の発表をする。

## 研修計画

- 1) 1年目：病理組織検体・細胞診検体の標本作製技術・知識の修得を通じ、病理学総論的な病因と病態（遺伝子異常と疾患・発生発達異常、細胞傷害、代謝障害、循環障害、炎症、腫瘍）に關し的確に説明できる。また、病理解剖の介助を通じて病理解剖の手技を習得する。
- 2) 2年目：病理各論的な個々の疾患に關し的確に説明でき、自ら病理組織診断・細胞診診断ができる。そのために必要な種々の特殊染色・免疫染色・電子顕微鏡標本作製・遺伝子解析に關して自らできる技術と知識を修得する。また、自ら病理解剖を執刀（12例以上）し、死体解剖資格（病理解剖20例以上）を取得する。さらに、院内の検討会での発表や地方学会での報告発表ができる。
- 3) 3年目：日々の病理診断業務の他に、自ら病理解剖を執刀し、最終剖検診断が出来る。また、全国学会での報告発表ができる。
- 4) 4年目：自ら経験した症例や研究の論文報告ができ、病理専門医受験資格を取得する。

### 病理研修指導者

#### ① 大学院コース

病理指導医：西川 祐 司 教授（病理学講座腫瘍病理分野）

病理指導医：立野 正 敏 教授（病理学講座免疫病理分野）

病理指導医：佐藤 啓 介 講師（病理学講座免疫病理分野）

#### ② 診断病理専門医コース

病理指導医：三代川 齊 之 教授（病理部・部長）

病理指導医：徳 差 良 彦 講師（病理部・副部長）

病理指導補助技師：3名（病理部）

連絡先／担当者氏名：三代川 齊 之（みよかわ なおゆき）

Mail Address: nao@asahikawa-med.ac.jp

病理部 Home Page Address:

<http://www.asahikawa-med.ac.jp/hospital/surgpath/>

TEL：0166-69-3390

FAX：0166-69-3399